

# 1. 試験項目及び浄水場概略

1-1. 水質基準等の概要

1-2. 試験項目及び試験方法等

1-3. 中宮浄水場平面図

別図1 配水池別系統図



## 1-1. 水質基準等の概要

水道水は、水道法及びこれに基づく水質基準に関する省令によって「水質基準項目」が定められており、すべての項目で基準値に適合しなければなりません。

さらに、水質基準を補完する項目として「水質管理目標設定項目」「要検討項目」があります。

### (1) 水質基準項目

水道水の安全性と生活利便性を考慮して基準値が設定されており、水道水が適合しなければならぬ水質の基準です。その基準項目（P4参照）は次の2つに分けられます。

#### ①健康に関連する項目：31項目

人の健康に影響を及ぼす恐れのある項目で、生涯にわたって連続的に摂取しても、健康に影響が生じないように安全性を十分考慮して基準値が設定されています。

項 目	分 類	説 明	
1 一般細菌	微生物	水道水の一般的清浄度の指標で、清浄な水には少なく、多量に検出される場合には病原生物に汚染されている疑いがあります。	
2 大腸菌		人や動物の腸管内に存在し、検出された場合は消化器系の病原菌に汚染されている疑いがあります。	
3 カドミウム及びその化合物		金属類	工場排水などから河川に混入することがあります。イタイイタイ病の原因物質として知られています。
4 水銀及びその化合物	工場排水などから河川に混入することがあります。有機水銀は水俣病の原因物質として知られています。		
5 セレン及びその化合物	工場排水などから河川に混入することがあります。		
6 鉛及びその化合物	水道水中には含まれていませんが、鉛管の使用により検出されることがあります。		
7 ヒ素及びその化合物	無機物質		工場排水などから河川に混入することがあります。
8 六価クロム化合物			窒素肥料や生活配水等に由来します。塩素処理により硝酸態窒素に酸化されるため水道水中には存在しません。
9 亜硝酸態窒素			自然水中にはほとんど存在していませんが、メッキ工業、金属精錬排水などから混入することがあります。
10 シアン化物イオン及び塩化シアン			窒素肥料、生活排水、下水などの混入によって検出されます。高濃度に含まれると幼児のチアノーゼ症の原因となります。
11 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	有機物質	自然界に広く分布しており、地質に由来して検出されます。高濃度に含まれると斑状歯の原因となります。	
12 フッ素及びその化合物		金属の表面処理剤やガラス工業などで使用され、これらの工場排水から混入することがあります。	
13 ホウ素及びその化合物		消毒副生成物	化学工業原料、金属の脱脂剤、塗料、ドライクリーニング等に使用されています。また、地下水汚染物質として知られています。
14 四塩化炭素			消毒剤である次亜塩素酸ナトリウムの分解により生成されます。
15 1,4-ジオキサン			
16 シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン			浄水過程で水に含まれるフミン質などの有機物と消毒剤の塩素が反応して生成されます。
17 ジクロロメタン			
18 テトラクロロエチレン			
19 トリクロロエチレン			
20 ベンゼン			原水中の臭素が高度浄水処理のオゾンと反応して生成されます。
21 塩素酸	クロロホルム、プロモジクロロメタン、ジブロモクロロメタン、プロモホルムの濃度を合計したものです。		
22 クロロ酢酸			
23 クロロホルム			
24 ジクロロ酢酸	浄水過程で水に含まれるフミン質などの有機物と消毒剤の塩素が反応して生成されます。		
25 ジブロモクロロメタン			
26 臭素酸			
27 総トリハロメタン			
28 トリクロロ酢酸			
29 プロモジクロロメタン			
30 プロモホルム			
31 ホルムアルデヒド			

②水道水が有すべき性状に関連する項目：20項目

色、濁り、臭いなど生活用水として使用するのに支障がなく、腐食性など水道施設の管理上障害が生ずる恐れのない水準を考慮して基準値が設定されています。

項目	分類	説明
32 亜鉛及びその化合物	色	工場排水などの混入や亜鉛メッキ鋼管からの溶出により検出されることがあります。高濃度に含まれると白濁の原因となります。
33 アルミニウム及びその化合物		工場排水などの混入や水処理に用いられるアルミ系凝集剤に由来して検出されることがあります。高濃度に含まれると白濁の原因となります。
34 鉄及びその化合物		水道水中の鉄は、鉄管からの溶出により検出されることがあります。高濃度に含まれると赤水、洗濯物の着色、異臭味の原因となります。
35 銅及びその化合物		水道水中の銅は、給水装置等に使用される銅管や真鍮器具からの溶出により検出されることがあります。高濃度に含まれると青水、洗濯物の着色、異臭味の原因となります。
36 ナトリウム及びその化合物	味	自然水中に広く存在します。水道水では水処理に使用する次亜塩素酸ナトリウムや酸化ナトリウムの添加により増加します。高濃度に含まれると味に影響を与えます。
37 マンガン及びその化合物	色	主として地質に由来し、工場排水などの混入でも検出されることがあります。水道水では色度の増加や黒水の原因となります。
38 塩化物イオン	味	地質に由来する他、下水、生活排水等の混入により増加します。
39 カルシウム、マグネシウム等(硬度)		カルシウムイオン、マグネシウムイオンの量を炭酸カルシウムの量に換算したもので主に地質に由来します。
40 蒸発残留物		水を蒸発乾固したときに残る物質の総量。水道水での主な成分はカルシウム、マグネシウム、ナトリウムなどの塩類及び有機物です。
41 陰イオン界面活性剤	発泡	合成洗剤の主成分です。工場排水、家庭排水の混入に由来し、泡立ちの原因となります。
42 (4S,4aS,8aR)-オクタヒドロ-4,8a-ジメチルナフタレン-4a(2H)-オール(別名ジェオスミン)	臭い	湖沼などで繁殖する藍藻類のアナベナ等により産生されるかび臭の原因物質。異臭味障害の原因物質として知られています。
43 1,2,7,7-テトラメチルビシクロ[2,2,1]ヘプタン-2-オール(別名2-メチルイソボルネオール)		湖沼などで繁殖する藍藻類のフォルミディウム、オシラトリア等により産生されるかび臭の原因物質。異臭味障害の原因物質として知られています。
44 非イオン界面活性剤	発泡	陰イオン界面活性剤と共に洗剤として使用されており、泡立ちの原因となります。
45 フェノール類	臭い	消毒剤、防腐剤、工場排水などの混入に由来します。塩素処理を行うと微量でも悪臭の原因となります。
46 有機物(全有機炭素(TOC)の量)	味	水中の有機物量の指標です。土壌に起因するほか、下水、工場排水などの混入によっても増加します。多く含まれると水道水の味を悪くします。
47 pH値	基礎的性状	酸性・アルカリ性の指標です。7が中性で、これより値が大きくなるとアルカリ性が、小さくなると酸性が強くなります。
48 味		地質や工場排水、下水などに起因し、水に溶存する物質の種類や濃度によって感じ方が異なります。
49 臭気		化学物質による汚染、藻類の繁殖、下水の混入などに起因します。
50 色度		水の着色の程度を数値で示したものです。自然水中の色度は主にフミン質に由来します。
51 濁度		水の濁りの程度を数値で示したもので、浄水処理の良否を判断する指標となります。

(2) 水質管理目標設定項目

将来にわたり水道水の安全性の確保等に万全を期する見地から「水質基準項目」に準じて、水道水質管理上留意すべき項目として目標値が設定されています。

項目	分類	説明
1 アンチモン及びその化合物	金属	自然水中にはほとんど存在しませんが、工場排水等の混入により検出されることがあります。
2 ウラン及びその化合物		地殻や海水中に微量ながら広く分布しています。
3 ニッケル及びその化合物		自然水中にはほとんど存在しませんが、工場排水等の混入により検出されることがあります。
5 1,2-ジクロロエタン	有機物	化学工業原料等に使用されています。揮発性のため河川水中にはほとんど存在しません。
8 トルエン		
9 フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)		プラスチックの可塑剤などに広く使用されています。
13 ジクロロアセトニトリル	消毒副生成物	浄水過程で水に含まれるフミン質などの有機物と消毒剤の塩素が反応して生成されます。
14 抱水クロラール		
15 農薬類	農薬	115種類の農薬が定められており、農薬類として総農薬方式で管理することとされています。個別の農薬の検出値とそれぞれの農薬の目標値との比を算出し、その総和が1以下になることを目標値としています。
16 残留塩素	臭い	水道法により塩素で消毒を行い、給水栓で残留塩素を保持することが義務付けられています。
17 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	味	水質基準項目にも位置づけられていますが、おいしい水の要件からさらに目標値が設定されています。
18 マンガン及びその化合物	色	水質基準項目にも位置づけられていますが、より高いレベルの水道を目指すため目標値が設定されています。
19 遊離炭酸	味	水中に溶解している二酸化炭素のことです。腐食性や水のおいしさの観点から目標値が設定されています。
20 1,1,1-トリクロロエタン	臭い	化学工業原料、金属の脱脂剤、塗料、ドライクリーニング等に使用されています。高濃度に含まれると異臭味の原因となります。
21 メチル-tert-ブチルエーテル	有機物	ガソリンの添加剤などに使用されています。水上バイクなどからの排出により検出されることがあります。
22 有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	味	有機物による汚れを知るための指標です。水質基準項目の「有機物(全有機炭素(TOC)の量)」とは別の方法により求めたものです。
23 臭気強度(TON)	臭い	臭気の強さを示す指標です。無臭味の水で臭気が感知できなくなるまで希釈し、その希釈倍数で臭気の強さを示したものです。
24 蒸発残留物	味	水質基準項目にも位置づけられていますが、おいしい水の要件からさらに目標値が設定されています。適度に含まれるとこくのある味になります。
25 濁度	基礎的性状	水質基準項目にも位置づけられていますが、より高いレベルの水道を目指すため目標値が設定されています。
26 pH値		
27 腐食性(ランゲリア指数)	腐食	水の金属腐食性の程度を示す項目で、水道施設の維持管理の観点から目標値が設定されています。
28 従属栄養細菌	微生物	浄水処理や消毒の効果を評価するために目標値が設定されています。
29 1,1-ジクロロエチレン	有機物質	化学工業原料、金属の脱脂剤、塗料、ドライクリーニング等に使用されています。また、地下水汚染物質として知られています。
30 アルミニウム及びその化合物	色	水質基準項目にも位置づけられていますが、より高いレベルの水道を目指すため目標値が設定されています。
31 ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタ酸(PFOA)	有機物	有機フッ素化合物の一種で、撥水材、防汚材、泡消火剤等で広く使用されてきました。環境中で分解されにくい性質を持っています。

(3) 要検討項目

毒性評価が定まらないことや、浄水中の存在量が不明等の理由から水質基準項目、水質管理目標設定項目に分類できない項目です。枚方市では下記の項目を測定しています。

項目	分類	説明
1 モリブデン	金属	特殊鋼などの合金や触媒などに用いられています。
2 ダイオキシン類	有機物質	水に溶けにくく、水中では主として微粒子に含まれており、通常の浄水処理で除去されます。
3 キシレン	臭い	染料や有機顔料の合成原料、農薬や医薬品の溶剤として使用されています。高濃度に含まれると異臭味の原因となります。

## 1-2. 試験項目及び試験方法等

### 水質基準項目

	項 目	単 位	基 準 値	試 験 方 法	最 小 桁 数	定 量 下 限 値
1	一般細菌	CFU/mL	100	標準寒天培地法	1	0
2	大腸菌	MPN/100mL	検出されないこと	特定酵素基質培地法(定性、定量)		
3	カドミウム及びその化合物	mg/L	0.003	ICP-MS法	小4	0.0003
4	水銀及びその化合物	mg/L	0.0005	還元気化-原子吸光光度法	小5	0.00005
5	セレン及びその化合物	mg/L	0.01	ICP-MS法	小3	0.001
6	鉛及びその化合物	mg/L	0.01	ICP-MS法	小3	0.001
7	ヒ素及びその化合物	mg/L	0.01	ICP-MS法	小3	0.001
8	六価クロム化合物	mg/L	0.02	ICP-MS法	小3	0.002
9	亜硝酸態窒素	mg/L	0.04	IC法	小3	0.004
10	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	mg/L	10	IC法	小2	0.1
11	シアン化物イオン及び塩化シアン	mg/L	0.01	IC-PC法	小3	0.001
12	フッ素及びその化合物	mg/L	0.8	IC法	小2	0.08
13	ホウ素及びその化合物	mg/L	1.0	ICP-MS法	小1	0.1
14	四塩化炭素	mg/L	0.002	HS-GC-MS法	小4	0.0002
15	1,4-ジオキサン	mg/L	0.05	HS-GC-MS法	小3	0.005
16	シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04	HS-GC-MS法	小3	0.004
17	ジクロロメタン	mg/L	0.02	HS-GC-MS法	小3	0.001
18	テトラクロロエチレン	mg/L	0.01	HS-GC-MS法	小3	0.001
19	トリクロロエチレン	mg/L	0.01	HS-GC-MS法	小3	0.001
20	ベンゼン	mg/L	0.01	HS-GC-MS法	小3	0.001
21	塩素酸	mg/L	0.6	IC法	小2	0.06
22	クロロ酢酸	mg/L	0.02	溶媒抽出-GC-MS法	小3	0.002
23	クロロホルム	mg/L	0.06	HS-GC-MS法	小3	0.001
24	ジクロロ酢酸	mg/L	0.03	溶媒抽出-GC-MS法	小3	0.003
25	ジブロモクロロメタン	mg/L	0.1	HS-GC-MS法	小3	0.001
26	臭素酸	mg/L	0.01	IC-PC法	小3	0.001
27	総トリハロメタン	mg/L	0.1	HS-GC-MS法	小3	0.001
28	トリクロロ酢酸	mg/L	0.03	溶媒抽出-GC-MS法	小3	0.003
29	ブロモジクロロメタン	mg/L	0.03	HS-GC-MS法	小3	0.001
30	ブロモホルム	mg/L	0.09	HS-GC-MS法	小3	0.001
31	ホルムアルデヒド	mg/L	0.08	溶媒抽出-誘導体化-GC-MS法	小3	0.008
32	亜鉛及びその化合物	mg/L	1.0	ICP-MS法	小1	0.1
33	アルミニウム及びその化合物	mg/L	0.2	ICP-MS法	小2	0.02
34	鉄及びその化合物	mg/L	0.3	フレイム-原子吸光光度法	小2	0.03
35	銅及びその化合物	mg/L	1.0	フレイム-原子吸光光度法	小1	0.1
36	ナトリウム及びその化合物	mg/L	200	フレイム-原子吸光光度法	小1	0.1
37	マンガン及びその化合物	mg/L	0.05	フレイム-原子吸光光度法	小3	0.005
38	塩化物イオン	mg/L	200	IC法	小1	3.0
39	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	mg/L	300	フレイム-原子吸光光度法	小1	0.1
40	蒸発残留物	mg/L	500	重量法	1	1
41	陰イオン界面活性剤	mg/L	0.2	固相抽出-HPLC法	小2	0.02
42	(4S,4aS,8aR)-オクタヒドロ-4,8a-ジメチルナフタレン-4a(2H)-オール(別名ジエオスミン)	mg/L	0.00001	PT-GC-MS法	小6	0.000001
43	1,2,7,7-テトラメチルビシクロ[2,2,1]ヘプタン-2-オール(別名2-メチルイソボルネオール)	mg/L	0.00001	PT-GC-MS法	小6	0.000001
44	非イオン界面活性剤	mg/L	0.02	固相抽出-吸光光度法	小3	0.005
45	フェノール類	mg/L	0.005	固相抽出-GC-MS法	小4	0.0005
46	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	mg/L	3	全有機炭素計測定法	小2	0.3
47	pH値		5.8~8.6	ガラス電極法	小2	
48	味		異常なし	官能法		
49	臭気		異常なし	官能法		
50	色度	度	5	比色法・透過光測定法	小1	0.1
51	濁度	度	2	比濁法・透過散乱光測定法 積分球式光電光度法	小2	0.01

### 水質管理目標設定項目

項目	単位	目標値 (* 暫定値)	試験方法	最小桁数	表記下限値
1 アンチモン及びその化合物	mg/L	0.02	ICP-MS法	小3	0.002
2 ウラン及びその化合物	mg/L	0.002*	ICP-MS法	小4	0.0002
3 ニッケル及びその化合物	mg/L	0.02	ICP-MS法	小3	0.002
5 1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004	HS-GC-MS法	小4	0.0004
8 トルエン	mg/L	0.4	HS-GC-MS法	小2	0.04
9 フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	mg/L	0.08	溶媒抽出-GC-MS法	小3	0.008
13 ジクロロアセトニトリル	mg/L	0.01*	溶媒抽出-GC-MS法	小3	0.001
14 抱水クロラル	mg/L	0.02*	溶媒抽出-GC-MS法	小3	0.002
15 農薬類		1	農薬ごとに定められた方法による		
16 残留塩素	mg/L	1	ジエチル-p-フェニレンジアミン法	小1	0.1
17 カルシウム、マグネシウム等(硬度)	mg/L	10~100	フレイム-原子吸光光度法	小1	0.1
18 マンガン及びその化合物	mg/L	0.01	フレイム-原子吸光光度法	小3	0.001
19 遊離炭酸	mg/L	20	滴定法	小1	0.1
20 1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.3	HS-GC-MS法	小2	0.03
21 メチル-tert-ブチルエーテル	mg/L	0.02	HS-GC-MS法	小3	0.002
22 有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	mg/L	3	滴定法	小1	0.1
23 臭気強度(TON)		3	官能法	1	1
24 蒸発残留物	mg/L	30~200	重量法	1	1
25 濁度	度	1	比濁法及び濁度計	小2	0.01
26 pH値		7.5	ガラス電極法	小2	
27 腐食性(ランゲリア指数)		-1~0	計算法	小2	
28 従属栄養細菌	CFU/mL	2,000*	R2A寒天培地法	1	0
29 1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.1	HS-GC-MS法	小2	0.01
30 アルミニウム及びその化合物	mg/L	0.1	ICP-MS法	小2	0.01
31 ベルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びベルフルオロオクタン酸(PFOA)	mg/L	0.00005*	固相抽出-LC-MS法	小6	0.000005

### 要検討項目

項目	単位	目標値 (* 暫定値)	試験方法	最小桁数	表記下限値
モリブデン	mg/L	0.07	ICP-MS法	小3	0.007
ダイオキシン類	pgTEQ/L	1*	GC-MS法	5-2. ダイオキシン類調査参照	
キシレン	mg/L	0.4	HS-GC-MS法	小2	0.04

### その他の項目

項目	単位	試験方法	最小桁数	表示例
気温	℃	棒状水銀温度計	小1	10.0
水温	℃	サーミスタ温度計	小1	12.3
電気伝導率	μ S/cm	電極法	1	123
浮遊物(SS)	mg	ろ過法	1	1
総アルカリ度	mg/L	中和滴定法	小1	12.3
総酸度		中和滴定法	小1	3.5
侵食性遊離炭酸		計算法	小1	2.3
溶存酸素	mg/L	溶存酸素計	小1	0.1
酸素飽和百分率	%	算出法	小1	0.1
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	溶存酸素計	小1	0.1
紫外線(UV)吸光度		吸光光度法	小3	0.001
硫酸イオン	mg/L	IC法	小1	12.3
リン酸イオン	mg/L	IC法	小2	0.01
アンモニア態窒素	mg/L	イオン電極法	小2	0.01
マグネシウム硬度	mg/L	フレイム-原子吸光光度法	小1	0.1
カルシウム硬度	mg/L	フレイム-原子吸光光度法	小1	0.1
カリウム	mg/L	ICP-MS法	小1	2.3
塩素要求量	mg/L	電流滴定法	小1	1.2
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	HS-GC-MS法	小4	0.0001
p-ジクロロベンゼン	mg/L	HS-GC-MS法	小4	0.0001
1,2-ジクロロプロパン	mg/L	HS-GC-MS法	小4	0.0001
トリハロメタン生成能	mg/L	HS-GC-MS法	小4	0.0001
生物	N/mL	直接検鏡法	1	0
クリプトスポリジウム及びジアルジア	個/10L	サイズ選択ろ過-磁気ビーズ法	1	0
嫌気性芽胞菌	CFU/50mL	ハンドフォード改良寒天培地法	1	0

※ 最小桁数 : たとえば「小2」は小数点下2位まで表示

農薬類(水質管理目標設定項目15の項)対象農薬

	項 目	目 標 値(mg/L)	試 験 方 法	最 小 表 示
1	1,3-ジクロロプロペン(D-D)	0.05	PT-GC-MS法	<0.0005
2	2,2-DPA(ダラポン)	0.08	LC-MS-MS法	<0.0008
3	2,4-D(2,4-PA)	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
4	EPN	0.004	固相抽出-GC-MS法	<0.00004
5	MCPA	0.005	LC-MS-MS法	<0.00005
6	アシュラム	0.9	LC-MS-MS法	<0.009
7	アセフェート	0.006	LC-MS-MS法	<0.00006
8	アトラジン	0.01	固相抽出-GC-MS法	<0.0001
9	アニロホス	0.003	固相抽出-GC-MS法	<0.00003
10	アミラズ	0.006	LC-MS-MS法	<0.00006
11	アラクロール	0.03	固相抽出-GC-MS法	<0.0003
12	イソキサチオン	0.005	固相抽出-GC-MS法	<0.00005
13	イソフェンホス	0.001	固相抽出-GC-MS法	<0.00001
14	イソプロカルブ(MIPC)	0.01	固相抽出-GC-MS法	<0.0001
15	イソプロチオラン(IPT)	0.3	固相抽出-GC-MS法	<0.003
16	イプロベンホス(IBP)	0.09	固相抽出-GC-MS法	<0.0009
17	イミノクタジン	0.006	固相抽出-LC-MS-MS法	<0.00006
18	インダノファン	0.009	LC-MS-MS法	<0.00009
19	エスプロカルブ	0.03	固相抽出-GC-MS法	<0.0003
20	エトフェンプロックス	0.08	固相抽出-GC-MS法	<0.0008
21	エンドスルファン(ベンゾエピン)	0.01	固相抽出-GC-MS法	<0.0001
22	オキサジクロメホン	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
23	オキシ銅(有機銅)	0.03	LC-MS-MS法	<0.0003
24	オリサストロビン	0.1	固相抽出-GC-MS法	<0.001
25	カズサホス	0.0006	LC-MS-MS法	<0.000006
26	カフェンストロール	0.008	固相抽出-GC-MS法	<0.00008
27	カルタップ	0.08	LC-MS-MS法	<0.0008
28	カルバリル(NAC)	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
29	カルボフラン	0.0003	LC-MS-MS法	<0.00001
30	キノクラミン	0.005	固相抽出-GC-MS法	<0.00005
31	キャプタン	0.3	固相抽出-GC-MS法	<0.003
32	クミロン	0.03	LC-MS-MS法	<0.0003
33	グリホサート	2	誘導体化-HPLC法	<0.02
34	グルホシネート	0.02	誘導体化-HPLC法	<0.0002
35	クロメプロップ	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
36	クロルニトロフェン(CNP)	0.0001	固相抽出-GC-MS法	<0.00001
37	クロルピリホス	0.003	固相抽出-GC-MS法	<0.00003
38	クロロタロニル(TPN)	0.05	固相抽出-GC-MS法	<0.0005
39	シアナジン	0.001	LC-MS-MS法	<0.00001
40	シアノホス	0.003	固相抽出-GC-MS法	<0.00003
41	ジウロン(DCMU)	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
42	ジクロベニル(DBN)	0.03	固相抽出-GC-MS法	<0.0003
43	ジクロルボス(DDVP)	0.008	固相抽出-GC-MS法	<0.00008
44	ジクワット	0.01	固相抽出-LC-MS-MS法	<0.0001
45	ジスルホトン(エチルチオメトン)	0.004	固相抽出-GC-MS法	<0.00004
46	ジチオカルバネート系農薬	0.005	HS-GC-MS法	<0.0005
47	ジチオピル	0.009	固相抽出-GC-MS法	<0.00009
48	シハロホップチル	0.006	固相抽出-GC-MS法	<0.00006
49	シマジン(CAT)	0.003	固相抽出-GC-MS法	<0.00003
50	ジメタメリン	0.02	固相抽出-GC-MS法	<0.0002
51	ジメエート	0.05	固相抽出-GC-MS法	<0.0005
52	シメリン	0.03	固相抽出-GC-MS法	<0.0003
53	ダイアジノン	0.003	固相抽出-GC-MS法	<0.00003
54	ダイムロン	0.8	LC-MS-MS法	<0.008
55	タゾメット, メタム(カーバム)及びメチルイソシアネート	0.01	PT-GC-MS法	<0.0001
56	チアニジル	0.1	LC-MS-MS法	<0.001



	項 目	目 標 値(mg/L)	試 験 方 法	最 小 表 示
57	チウラム	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
58	チオジカルブ	0.08	LC-MS-MS法	<0.0008
59	チオファネートメチル	0.3	LC-MS-MS法	<0.003
60	チオベンカルブ	0.02	固相抽出-GC-MS法	<0.0002
61	テフリルトリオン	0.002	LC-MS-MS法	<0.00002
62	テルブカルブ(MBPMC)	0.02	固相抽出-GC-MS法	<0.0002
63	トリクロピル	0.006	LC-MS-MS法	<0.00006
64	トルクロルホン(DEP)	0.005	LC-MS-MS法	<0.00005
65	トリシクラゾール	0.1	LC-MS-MS法	<0.001
66	トリフルラリン	0.06	固相抽出-GC-MS法	<0.0006
67	ナプロパミド	0.03	固相抽出-GC-MS法	<0.0003
68	パラコート	0.005	固相抽出-LC-MS-MS法	<0.00005
69	ピペロホス	0.0009	固相抽出-GC-MS法	<0.000009
70	ピラクロニル	0.01	LC-MS-MS法	<0.0001
71	ピラゾキシフェン	0.004	固相抽出-GC-MS法	<0.00004
72	ピラゾリネート(ピラゾレート)	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
73	ピリダフェンチオン	0.002	固相抽出-GC-MS法	<0.00002
74	ピリプチカルブ	0.02	固相抽出-GC-MS法	<0.0002
75	ピロキロン	0.05	固相抽出-GC-MS法	<0.0005
76	フィプロニル	0.0005	LC-MS-MS法	<0.000005
77	フェニトロチオン(MEP)	0.01	固相抽出-GC-MS法	<0.0001
78	フェノブカルブ(BPMC)	0.03	固相抽出-GC-MS法	<0.0003
79	フェリムゾン	0.05	LC-MS-MS法	<0.0005
80	フェンチオン(MPP)	0.006	固相抽出-GC-MS法	<0.00006
81	フェントエート(PAP)	0.007	固相抽出-GC-MS法	<0.00007
82	フェントラザミド	0.01	LC-MS-MS法	<0.0001
83	フサライド	0.1	固相抽出-GC-MS法	<0.001
84	ブタクロール	0.03	固相抽出-GC-MS法	<0.0003
85	ブタミホス	0.02	固相抽出-GC-MS法	<0.0002
86	ブプロフェジン	0.02	固相抽出-GC-MS法	<0.0002
87	フルアジナム	0.03	LC-MS-MS法	<0.0003
88	プレチラクロール	0.05	固相抽出-GC-MS法	<0.0005
89	プロシミドン	0.09	固相抽出-GC-MS法	<0.0009
90	プロチオホス	0.007	固相抽出-GC-MS法	<0.00007
91	プロピコナゾール	0.05	固相抽出-GC-MS法	<0.0005
92	プロピザミド	0.05	固相抽出-GC-MS法	<0.0005
93	プロベナゾール	0.03	LC-MS-MS法	<0.0003
94	プロモブチド	0.1	固相抽出-GC-MS法	<0.001
95	ベノミル	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
96	ペンシクロン	0.1	固相抽出-GC-MS法	<0.001
97	ベンゾピシクロン	0.09	LC-MS-MS法	<0.0009
98	ベンゾフェナップ	0.005	LC-MS-MS法	<0.00005
99	ベンタゾン	0.2	LC-MS-MS法	<0.002
100	ペンディメタリン	0.3	固相抽出-GC-MS法	<0.003
101	ベンフラカルブ	0.02	LC-MS-MS法	<0.0002
102	ベンフルラリン(ベスロジン)	0.01	固相抽出-GC-MS法	<0.0001
103	ベンフセレート	0.07	固相抽出-GC-MS法	<0.0007
104	ホスチアゼート	0.003	LC-MS-MS法	<0.00003
105	マラチオン(マラソン)	0.7	固相抽出-GC-MS法	<0.007
106	メコプロップ(MCPP)	0.05	LC-MS-MS法	<0.0005
107	メソミル	0.03	LC-MS-MS法	<0.0003
108	メタラキシル	0.2	固相抽出-GC-MS法	<0.002
109	メチダチオン(DMTP)	0.004	固相抽出-GC-MS法	<0.00004
110	メトミノストロピン	0.04	LC-MS-MS法	<0.0004
111	メトリブジン	0.03	LC-MS-MS法	<0.0003
112	メフェナセット	0.02	固相抽出-GC-MS法	<0.0002
113	メプロニル	0.1	固相抽出-GC-MS法	<0.001
114	モリネート	0.005	固相抽出-GC-MS法	<0.00005

IC法: イオンクロマトグラフによる一斉分析法 ICP-MS法: 誘導結合プラズマ質量分析装置による一斉分析法

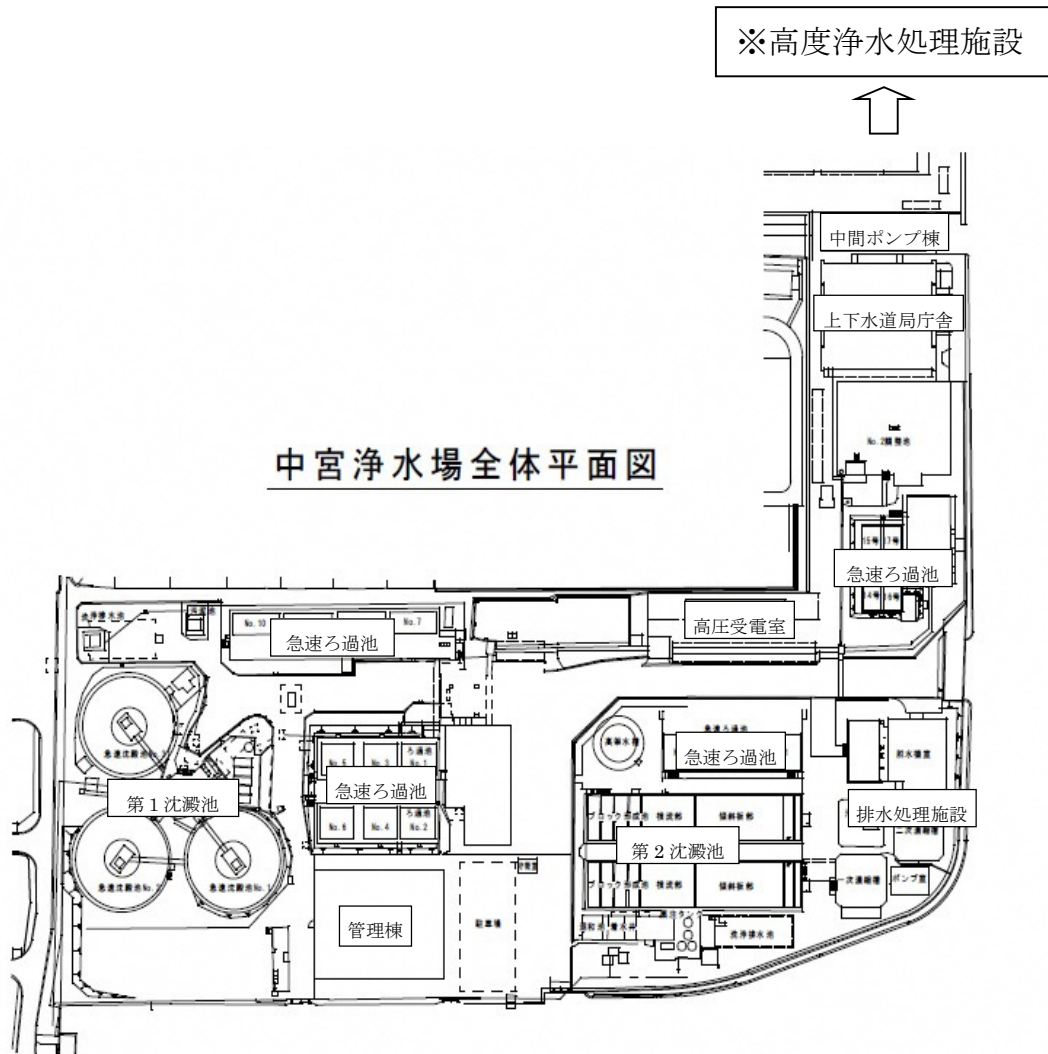
IC-PC法: イオンクロマトグラフーポストカラム吸光度法 HPLC法: 高速液体クロマトグラフ法

HS-GC-MS法: ヘッドスペースーガスクロマトグラフ質量分析計による一斉分析法

PT-GC-MS法: パージ・トラップーガスクロマトグラフー質量分析法

LC-MS-MS法: 液体クロマトグラフー質量分析法

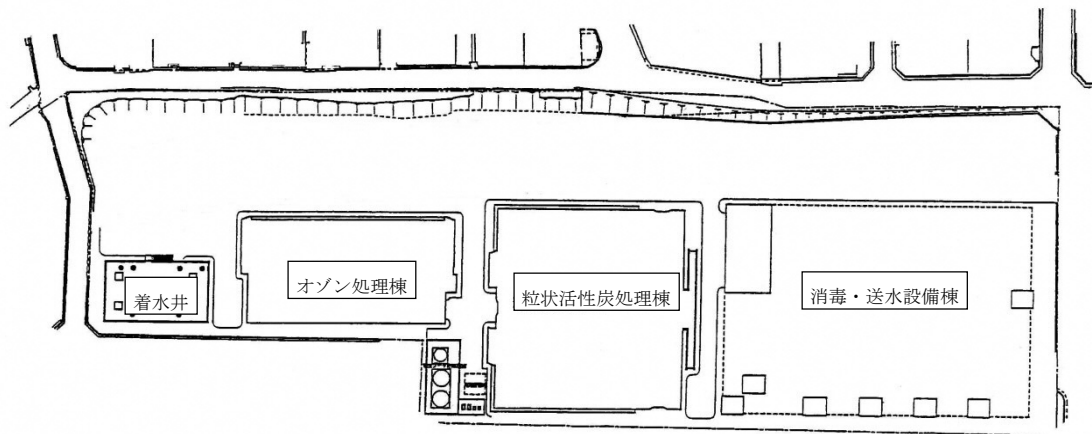
### 1-3. 中宮浄水場平面図



※高度浄水処理施設



### ※高度浄水処理施設平面図



# 1. 配水池別系統図

- ① 楠葉配水場系統
- ② 田口山配水場系統
- ③ 北山高区配水場系統
- ④ 北山低区配水場系統
- ⑤ 北部長尾配水池系統
- ⑥ 東部長尾・氷室低区配水場系統
- ⑦ 長尾宮前配水場系統
- ⑧ 津田低区配水場系統
- ⑨ 津田高区配水場系統
- ⑩ 国見山配水池系統
- ⑪ 尊延寺配水場系統
- ⑫ 新穂谷配水場系統
- ⑬ 新穂谷配水場系統(加圧)
- ⑭ 中宮直送系統
- ⑮ 鷹塚山配水場系統
- ⑯ 鷹塚山配水場系統(加圧)
- ⑰ 妙見山配水池系統
- ⑱ 大池配水場系統
- ⑲ 東香里高架水槽系統
- ⑳ 氷室高区配水場系統(上系)
- ㉑ 氷室高区配水場系統(下系)
- ㉒ 楠葉配水場高架水槽系統

